児童・生徒の現状・課題

・学習への意欲は高く、積極的に活動等に取り組むことで学習の定着を実感している。しかし予想を立てたり、自分の考えをまとめ(考察し)たりすることに対して苦手を感じている児童が多くみられる。

学び続ける力を育むための重点目標

〇思考の過程の流れを繰り返し経験することで、

自分の考えをもちながら学習活動に取り組むことができるようにする。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	84.3	90	
②問題や課題に取り組んでもうまくいかないときにはうまくいくように違うやり方を試したり調べたりして粘り強く取り組んでいる。	81.2	85	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	88.2	93	
②授業では、児童が選択した学びを、相互で共有したり、見直し・修正したりする場面を設定している	88.2	93	

具体的な手だて①

<魅力的な事象提示、教材との出会いの工夫>

子供たち自身が「知りたい！やってみたい！」と主体的に学習に取り組めるように、教材との出会いを工夫し学習の見通しをもてるようにする。

具体的な手だて②

<思考力を育てるための授業過程の工夫>

毎時間の授業の流れをなるべく統一することで自分の考えをもち、理解度を自ら確認し、修正しながら学習できるようにする。

具体的な手だて③

<思考を共有するための工夫>

メンバーや、ツールなど、学習内容の目的に沿って自分で選択できる機会を設ける。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

・授業観察などで指導案を作成する際には、子供たちが自分で学びを選択したり、計画したりする場面を設定し、その指導案を教員に配布することで、手立てを学び合える機会を設け、日常の授業実践に生かす。

・掲示物を活用して「めあて」を意識した１単位時間の学習の流れを推進する。また、問題解決型の実践モデルを校内研究をとおして研究する。

総括(7月)

全国学力学習状況調査の結果を見ると、全国平均、東京都の平均をすべての教科で上回っていることが分かる。だが、課題はある。そのグラフの概形は二峰性分布を表していることである。つまり、「学習が得意な子」と「苦手な子」の二極化が考えられるといえる。だれ一人取り残さない教育を目指すためにも、どの子も理解し、主体的に活動できるようなインクルーシブな取組の共有と、発展的な内容を取り扱うための教材研究が必須である。そこで、授業改革の中心を“見通しをもてる学習活動の展開”と”自ら学びを選択する主体的な児童の育成”に据えた。

総括(1月)